



行田電線(大阪市城東区)は、2025年12月期を最終年とする中期5カ年経営計画の推進と、次期中期3カ年経営計画(26~28年度)の策定を同時並行で進める。

■メーカーの枠にとられない

行田史朗社長は「20年、21年のCOVID-19の影響で中期5カ年経営計画の最終年度を2年遅らせた修正計画に沿ってDDC(電機・デバイス社)、KEC(環境・エネルギー社)、GBC(グローバルビジネス社)の3カンパニーが多様な製品・サービスの拡大に取り組んでいる。最終年度グローバル連結売上高320億円、営業利益23億5000万円の業績目標は、修正計画でも変えていない。メーカーの枠にと

行田電線 行田 史朗 社長に聞く

中期5カ年経営計画と新中期3カ年経営計画



行田 社長
の統括会社として、グローバル売上高100億円に向けて再構築を進めている。

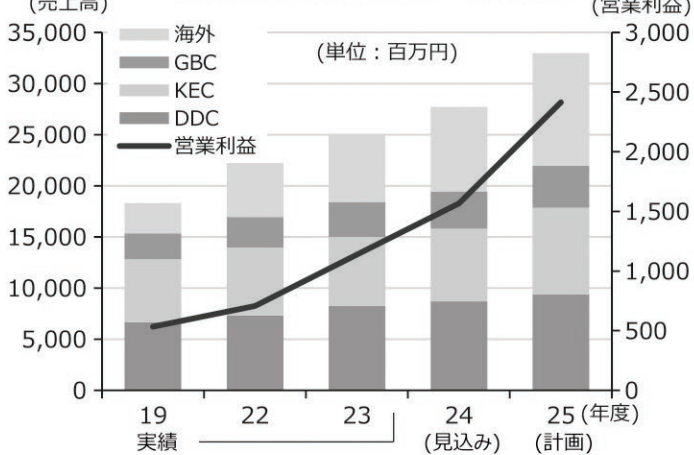
①は、滋賀工場(滋賀県東近江市、敷地面積3万3500平方メートル)に新工場棟(床面積2000平方メートル)を増築し、中国、東南アジアでの販売、貿易の拡大を図る。②は、1992年に設立し、32年間、中国モノづくりの拠点としてきた中国・上海工場(閔行区)での生産活動を6月で終了。今後、東南アジアでの販売、貿易の拡大を図る。

③は、2025年度から開始する「3重点プロジェクト」の推進。①は、海外市場の拡大を図る。②は、国内市場の拡大を図る。③は、新事業の展開を図る。

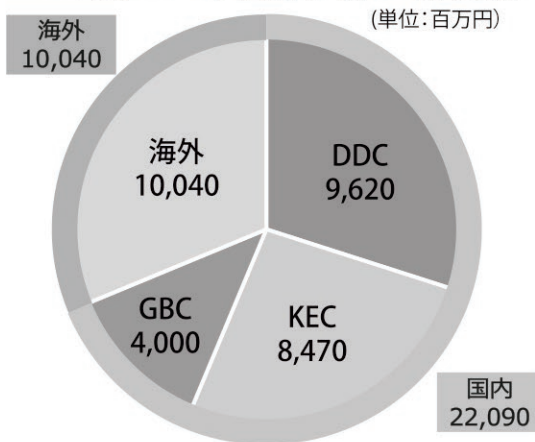
3重点プロジェクト実行を加速

顧客のチャイナプラスワンを現在の200人から体制の構築を進めていく。③は、21年1月から草津工場(滋賀県草津市)で生産を開始した100周年記念品で社員に配布した最大出力65WのUSB PD規格対応GaNアダプターを備えた手のひらサイズの「モバイル電源タップ」、伸縮電源を使用した「USB Type-C充電ケーブル」、最大出力30Wの「モバイル電源」。

中期5カ年計画 売上高・営業利益



25年度グローバル連結売上高320億円内訳



■ニッチ分野でも存在感ある企業に
行田社長は「これまで通りやっているだけ打ち出す考えだ。」

また、24年2月の創業100周年記念式典とサービスに努め、社で打ち出した次の100年の発展に専念してきXt 100 The Next 100に向けて、機に定めた「安心、安くて26~28年度の新中期3カ年経営計画を策定する。既に3カンパニーで各社長、幹部を中核に策定準備作業に入っている。Xt 100でも社会に貢献できる企業を目指す」と利益に軸足を置き持続的成長を続けることができる経営を打ち出す考えだ。